

米国への牛肉輸出も可能に



玉串をささげた山内社長

牛のと畜施設の増設工事を行っている北海道畜産公社道東事業所十勝工場の第3工場（帯広市西25北2）で21日、2期工事の安全祈願祭が行われた。完成は来年

2月27日を予定。高度な衛生管理ができる施設となり、米国への牛肉輸出も可能になる。

工事は市川組（帯広市）と川田工業（同）の共同企業体（JV）が行い、2014年度に1期工事として基礎と鉄

骨の工事が終わった。建物は高さ12.25メートルの鉄骨造り2階建て延べ8580平方メートルになる。15年度は空調冷蔵設備や廃水処理設備工事をする。第3工場の総事業費は約69億円、このうち2期工事は約36億円。14年度の国の強い農業づくり事業を活用する。

安全祈願祭には同公社の山内啓二社長、設計監理者の北農設計センターの岡崎紀昭社長、市川組の市川幹雄社長ら関係者約40人が出席し、玉串をささげた。

増設により、同工場のと畜処理能力は1日当たり100頭、既存の第1、第2工場の同350頭と合わせると同450頭で、牛では国内最大級となる。山内社長は「北米輸出を目指して衛生管理を徹底した新たな工場は、十勝の肉用牛の生産者、販売企業にとっても長年の夢を実現するものになる」とあいさつした。

インドネシアで十勝農産物PR 農水省イベント 枝豆などを出展 2015年11月28日



十勝産ナガイモ、黒ニンニクなどが人気を集めたイベント

21、22日に農林水産省がインドネシア・ジャカルタのイオンモールで開いた食イベントで、北海道ブランドとして十勝産のナガイモ、枝豆、黒ニンニクが出展された。いずれも用意していた約200

人分全てが提供され、東南アジア圏での人気を裏付けた。

日本インドネシア国会議員連盟会長の二階俊博自民党総務会長ら国会議員や経済界関係者が、日インドネシア

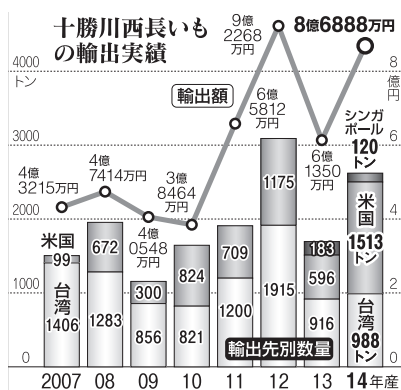
文化経済観光交流団として20～24日に現地を訪問した。旅行者との商談会やシンポジウム、交流会などを通じて、経済交流の足掛かりを目指した。中川郁子衆院議員も現地入りした。

J A中札内村がインドネシアで物産を紹介するのは初めてで、山本勝博組合長と職員の2人が、枝豆と黒枝豆約14キロを試食用に提供した。現地在住の日本人などから好評で、山本組合長は「現地も枝豆生産地だが味や品質が高評価を得られ自信を持った。次の展開も考えてい」と話した。

現地風のソースで味付けしたJ A帯広かわにしのナガイモや黒ニンニクも人気を集めた。

川西長いも好調 2014年産輸出8.6億円 過去2番目

2016年1月22日



管内8 J Aで生産する「十勝川西長いも」の2014年産（14年11月～15年10月分）の輸出入額は8億6888万円、輸出入量は2621トンと、ともに過去2番目の好成績だった。輸出全体の数量と金額は、

管内8 J Aで生産する「十勝川西長いも」の2014年産（14年11月～15年10月分）の輸出入額は8億6888万円、輸出入量は2621トンと、ともに過去2番目の好成績だった。輸出全体の数量と金額は、

ナガイモは中華系の人たちが薬膳料理に活用し人気。14年産の生産量は2万870トンと前年産より2割多く、輸出に適した年だった。

米国輸出増加

最大の輸出先は米国で、前年産の2.5倍となる1513トン、金額で同2.3倍の4億8950万円と過去最高を記録した。同国の中華系住民には潜在的な需要があり、貿易会社との連携で新たな販路を開拓したことが奏功した。

台湾への輸出は同8%増の988トン、同1%増の3億3817万円だった。ただ、日本国内他産地からの輸出も増えて飽和状態となっており、「十勝川西長いも」の輸出先は米国輸出にシフトしてきている。

13年産から本格的に大型コンテナで輸出するようにな